

ご卒業おめでとうございます。

皆さんへのはなむけの言葉として相応しいかどうかわかりませんが、少し個人的な思い出話をさせてください。

いまから9年前の2011年3月、東日本大震災によって学位授与式が中止になりました。

私は当時、9年半かけてようやく博士号を取得したのですが、セレモニーにはそれほど思い入れはなく、中止そのものにも特段の感慨はありませんでした。

でも、両親は違うことを考えていたようでした。

長年の努力が一つのかたちとなったことをとても喜んでくれました。

アカデミックガウンを借りるお金も出してくれました。

セレモニーが中止になるというのは、個人だけの

問題ではなく、その個人をそれまで支えて

きてくれた人たちの問題でもあるのだと

いうことを、そのときに私は気づかされた

わけです。（続）



卒業という門出の日を迎えられたのは、もちろんみなさんの今までの多大な努力があつてのことです。

しかしそれと同時に、そうした努力をするための環境を整備してくれた様々な人びとについても、是非思いを馳せてください。

そうした環境の有無によって社会的に作り出されている「格差」についても、今後じっくり考えてもらえれば幸いです。

そしていずれはあなた自身が、他の誰かが努力できる環境を整備する人になってください。

皆さんのこれからの人生に幸多からんことを。

小野寺 拓也

